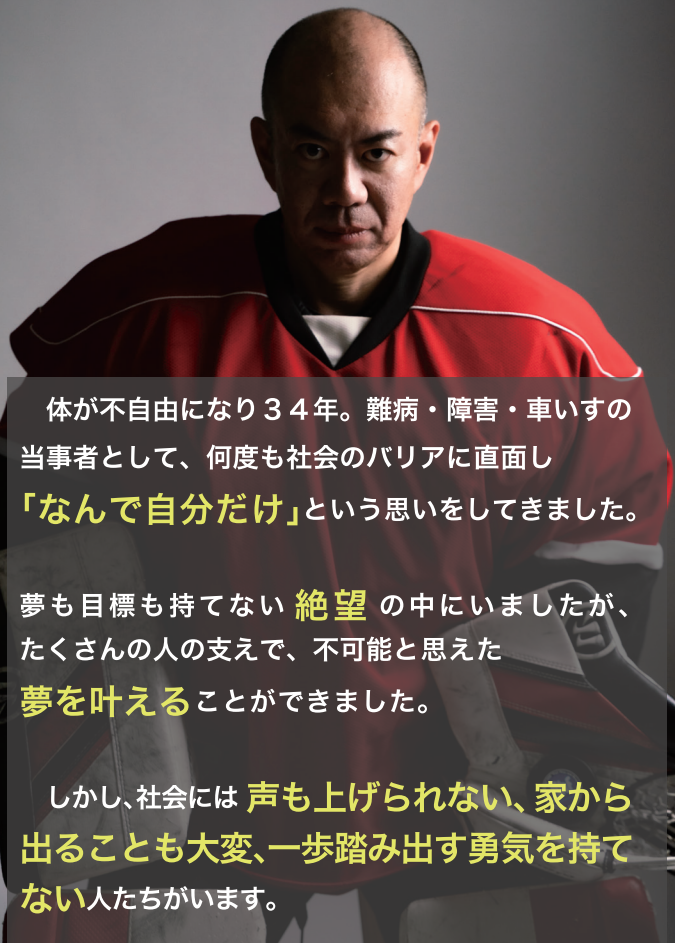


スポーツを楽しめる旭川に



体が不自由になり34年。難病・障害・車いすの当事者として、何度も社会のバリアに直面し

「**なんで自分だけ**」という思いをしてきました。

夢も目標も持てない**絶望**の中にいましたが、
たくさんの人の支えで、不可能と思えた

夢を叶えることができました。

しかし、社会には**声も上げられない、家から
出ることも大変、一歩踏み出す勇気を持て
ない**人たちがいます。

永瀬充だからこそ、皆さんの声となり、目となり、
足となり『**誰ひとり取り残さない社会を**』
をつくります。

HP・LINE で活動を発信中！

公式 HP



公式 LINE



プロフィール

1976（昭和51）年1月23日生まれ（49歳）

千葉市にて出生、幼少期を横浜市で過ごす
幼稚園年長時に父の転勤により旭川市に転居
以降人生の大半を旭川市で過ごす

神居小学校卒業（1988）、神居中学校卒業（1991）
旭川凌雲高校卒業（1994）
中学・高校ではバスケットボール部所属

高校1年秋に足に違和感を感じ、冬に
「慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）」の診断を受ける

夢も目標もなく、仕事も学業もない19歳の3月（1995）
にパラリンピック・パラスポーツの存在を知り、
パラアイスホッケーを始める

19～20歳 障害者作業所利用者
21～24歳 北海道職員（美瑛市内の障害者施設配属）
24～27歳 カナダ留学
29～41歳 医療法人職員として障害者相談支援業務

パラアイスホッケー日本代表GKとして4度の
パラリンピックに出場（1998、2002、2006、2010）
2010年バンクーバー大会では銀メダルを獲得（34歳）

41～49歳 新聞社でパラスポーツアドバイザーとして勤務

旭川市民栄誉賞・道民栄誉賞受賞（2010）
社会福祉士
中級パラスポーツ指導員
日本青年会議所人間力大賞準グランプリ（2005）

社会福祉士
元パラリンピック選手
旭川市民栄誉賞受賞

誰一人取り残さない社会を

永瀬

ながせ

充

みつる

